

「充電式の電車!?(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

烏山線が電化か非電化かは、このあとすぐにわかった。宝積寺駅のホームを出発して烏山線線路に入るところで、確かに架線が途切れていた。



しかし、私が乗った「電車」は、構わず架線の無い区間へ進入していく。普通の電車なら停止してしまう。



しかし、何も心配はなかった。風景はまさしく非電化の線路だが、そこを「電車」がスイスイ走っている。しかもディーゼルカーのようなエンジン音は全くなく、通勤電車のモーター音と変わらない。



電車は田園地帯を快走し、終点の烏山駅に着いた。

Wikipedia の記載通り、駅のホーム部分だけ「架線らしきもの」が設置されている。



私は電車から降りて、急いでパンタグラフを観察してみた。到着直後は下りていたが・・・すぐにガタン! と上がって、車内に「ウィーン」という音が響いた。充電が始まったに違いない。



ホームにも「充電ゾーン」の表示がある。運転士はこのエリアに車両が来るように停止させるのだろう。



烏山線は行き止まりの路線、いわゆる「盲腸線」である。こうしたローカル線では、数分で折り返すことが多い。しかし、この列車は「充電タイム」で30分も停車していた。これは短距離のローカル線には画期的なシステムだと思った。全国に波及すると良い。